



日本で4番目に大きな大仏様

東京大仏
東武東上線 下赤塚駅 徒歩18分

我が街の記念碑
25



【板橋・看板取付・綿貫勝則通信員】板橋区赤塚の乗蓮寺に「東京大仏」があります。重さは32トン、高さは台座も含めて12・5メートルという大きな大仏様。青銅製の鑄造だそうです。東京大空襲、関東大震災などの悲惨な戦災・震災が起き

ないように願いを込めて、昭和52年(1977年)に建立されました。新東京百景にも選ばれたほどで、とても堂々として見えます。

恒久平和を祈願して建立 新東京百景にも選出

乗蓮寺の大本尊は阿彌陀如来。浄土宗赤塚山慶学院(せきちょうさんけい)がくいんと称する寺院です。乗蓮寺は応永年間(1394~1428年)に了賢無的(りょうけんむてき)が山中村(現仲町)で人々に教化したことに始まり、後に板橋の中宿(現仲宿)に移転したと

伝えられています。天正19年(1591年)に徳川家康から十石の朱印地を与えられて以来、代々の将軍から朱印状を与えられました。寛保3年(1743年)八代将軍吉宗が鷹狩りの際に乗蓮寺に雨宿りしたのが縁となり、それ以来将軍家の鷹狩りの小休所や御膳所となりました。

昭和46年から7年の歳月をかけて現在の地に移転しましたが、その際の天災戦災等の無縁仏の供養や恒久平和(こうきゅうへいわ)と変わらず平和の四字熟語を祈願して青銅製の東京大仏が建立されました。

周辺には緑豊かな自然が残っており、赤塚城址公園、溜池公園、郷土資料館、板橋区美術館、赤塚植物園など見応えのある施設や公園もたくさんあり、散策におすすめです。

忘れえぬこと

娘の出産に立ち会って

なかば、パニックに

大工 大内 修



先日のニュースに、小泉環境大臣のコメントで「出産に立ち会えてよかった」とありました。これで思い出したのが長女誕生のことでした。出産前日の夜、明日は仕事を休むと話したら母が一言、「男は仕事をしていればい

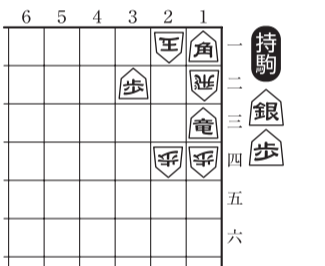
い」。翌朝現場に着くとお施主さんから「お子さん生まれたと電話がありましたよ」と言われ、家に連絡すると母が出て、女の子だと教えてくれました。すぐ戻ると言う「男は仕事をしていればいい」とまた言われてしまいました。それから33年後、妻の出産に立ち会えなかった私が娘の出産に立ち会うことに。昨年の支部大会の後、家に戻ると娘が破水して婿さんと病院へ行ったとのこと。陣痛が始まったと連絡があり、妻と病院

へ。当直の看護師さんの案内してくれた部屋のドアを開けると、長めのソファがありその斜めにカーテンが引かれ、女医さんと助産師さんが忙しそうに動いていました。カーテンの向こうから娘のハイハイウンウンの声を聴き、大変な所に来てしまったと平ば、パニック状態で妻にながされてソファに座りました。あの時娘をあの場面であんな怒りかたしたから苦しんでいるのかなとか、俺はあんなに頑張れないとか、支離滅裂な思いで下を見続けていた時、妻が救いの一言「外のロビーで休んでいていいよ」。それからどのくらい経ったか「生まれたわよ」と妻が迎えに来て病室に入ると、娘のおなかの上に赤ん坊が乗っていました。胸の中で娘に、「お疲れさまでした」というのが一杯でした。(世田谷)

元祖キレ芸
1974年3月、体力の限界を理由にザ・ドリフターズを脱退した荒井注は、半年後には芸能界に復帰して俳優として活躍した。その後、38歳も年下の女性と再婚して伊豆に移住。当時ブームだったカラオケボックスの経営を考えた

「完成した建物の入口が狭すぎて機材を入れることができずに断念。この件がワイドショーで取り上げられた際、レポーターの質問に、「何だ、バカヤロウ!」と往年のギャグで答えた。

詰将棋



チヨット一服(108)

新型コロナウイルスでマスクが品薄になり、花粉の飛散が本格化する時期を迎えて不安に感じる花粉症患者は多いのではないかと。一説によるとマスクでは完全に肺炎のウィルスを防げないそうで、自分が感染したときに他人にうつさないためには有効だとか。マスクが買

占められることなく、必要な人へ渡してほしいものだ。マスクを高額で転売することも迷惑な話だが、新型コロナウイルスの感染拡大を緊急事態の一例だと騒ぎ立て、憲法を改正して緊急事態条項を設けるべきだと発言した政治家がいる。国民の病気の不安を煽って改憲しようとするとは、姑息としか言いようがない。

カンパニー・メン

「オックスフォード」が先月発表した報告書では、世界の富裕層の上位2100人余りの資産合計は世界総人口のおよそ6割に当たる46億人の資産合計を上回るとい

「明日からもう会社に来なくていい」と上司から告げられたら、あなたならどうするだろうか。

今回紹介する「カンパニー・メン」はまさにそんなシーンから始まる。ポストンに本社を構える総合企業が赤字の造船部門を鉄道部門と統合。それに伴い断行された大幅なリストラにより、販売部長のポビーはある日突然リストラを宣告される。すぐ再就職できると思っていたポビーだったが、現実を厳しく解雇手当も底をついてしまい...

ジョン・ウェルス監督・脚本・製作による本作は、2010年にロサンゼルスとニュー

に描いた作品だ。プライドが高く、生活レベルを下げての再就職になかなか踏み切れない元エリート社員ポビーをベン・アフレック、上司役をトミー・リー・ジョーンズ、義兄で大工の棟梁役をケヴィン・コスナーが演じている。国際的NGO



ヨークのみで公開。時期を見てわかるように、リーマン・ショック後の切迫感漂うアメリカ社会をリアル

被告が、自身の体験をハリウッドで映画化する話が進んでいるとの噂がある。日産時代、2万1千人を大量解雇する一方で自らは超高額報酬をとっていたゴーン被告。日産を立て直した救世主の華麗なる脱出劇のように描いた映画だけは、勘弁願いたいものだ。